

令和3年度 分掌チャレンジ

令和3年度		分掌等名	教頭、首席、教務部、生徒指導部、進路保健部、人権・道徳教育推進委員会、生徒支援委員会	
学校経営計画		年度末チェック		
基礎学力の定着	ICTや視聴覚教材を取り入れ、分かりやすい授業を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員向け研修を1月12日に実施。オンライン授業も視野に入れたICT機器の取り扱いに教員全体で取り組んでいる。 ・学校教育自己診断のICT関係の設問に関しては肯定的意見が89%となっており、昨年に引き続き高い水準となっている。 		
	「分かる」「楽しい」を実感し、「達成感」を持てる授業づくりと環境づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・年度始めに携帯指導のマニュアルや授業規律を全教員が再認識する機会を設けたことで、今年度の携帯指導による特別指導件数は1件、授業妨害での特別指導件数は0件であった。しかしながら、度々注意をしなければならない生徒が一定数いるため、今後も粘り強く指導していく。 ・学校教育自己診断(生徒)で「学校の授業中は、落ち着いて学習しやすい。」の肯定率を7%向上させることができた。(R2:67%→R3:74%) ・今年度から中抜け、無断早退の指導を強化した中で、年度始めは特に反発が起きたものの、全教員の協力により、少しずつではあるが、生徒たちの変化を感じ取ることができ、また、早退者数を減少させることができた。(R2:1400件→R3:325件(※出席停止を除く)) 		
	生徒の認知能力を把握し、個々に応じた授業内容・教材の工夫を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・コグトレの効果測定はまだ未実施であるが、生徒らは真摯に取り組んでいる。 ・本年度、新しい取り組みの渡日生に対する抽出、入り込みの拡充を行った。対象生徒は学校に定着し、進級の見込みも立っており、一定の効果があったと思われる。 		
図書館の利用促進	図書館の利用を促進し、本に触れる機会を増やす。	<ul style="list-style-type: none"> ・図書室での授業実施(学年でのキャリア教育・総合探究)や、図書便りの定期的な発行などで図書室利用の推進に努め、今年度図書室の利用者数は12月までで延べ1300人(昨年度が1202人)で昨年度比108%となった。 		
自尊感情の育成	人としての倫理観や規範意識の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・後期の人権学習の機会は1年が3回、2年が2回、3年が2回、4年が2回で計画通り実施できた。 ・秋以降に新型コロナウイルス感染症の感染拡大が少々落ち着いたこともあり、明月祭、明月杯争奪戦、卒業生を送る会などの行事は予定通り実施できた。また、クラブ活動に活気が戻っただけでなく、学年単位のレクリエーション等の取り組みも増え、前期に比べて多くの生徒が、互いを認め、ともに高め合う人間性を育むことができる機会を設けることができた。 		
	命の大切さ、善悪の判断等について指導する。	<ul style="list-style-type: none"> ・公民科を中心に、各教科で行われる授業が一層、具体的な指導の機会として充実することを期待して、12月2日(木)の職員会議において、令和3年度高等学校道徳教育研究協議会の動画視聴を教職員に奨励した。次年度以降は、新学習指導要領を念頭に置いた取り組みを講じる必要がある。 ・令和3年度の学校教育自己診断(生徒)の「命の大切さ、社会のルール、人権の大切さについて考える機会がある」の肯定率は87%で、3年連続で向上しており、目標を達成することができた。今年度の目標は令和5年度に85%を記録することであるため、次年度以降にこの水準を維持できるよう、取り組みを継続していく。 		
	コミュニケーション力の向上	学校行事を積極的に参加できる環境をつくり、人と関わる喜びを体験させる。また、体育祭や文化祭等の行事において、保護者や地域、中学校教員と積極的に連携を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の登校時には、多くの教員が門に立ち、挨拶と声かけを行い、生徒が自ら挨拶をしやすい環境づくりができた。 ・学校教育自己診断(生徒)で「自分は、あいさつをしている。」の肯定率を2%向上させることができなかった。あいさつを返してくれる生徒が年々増えてきたため、今年度からは生徒自らあいさつができるようになることを目標にしたため、数値が思うように上がらなかったと考えられる。今後も継続して指導していきたい。(R2:71%→R3:72%) ・今年度の行事も、新型コロナウイルス感染拡大防止による制限が多くある中で、生徒会が中心となり、行事の企画運営を行ったり、生徒が主体的に参加、活躍できる行事にすることができた。 ・行事の生徒参加率を維持することができた。(R2 体育祭:59.7%→R3 体育祭:64.7% 文化祭:53.6%) ・学校教育自己診断(生徒)で「体育祭、文化祭などの学校行事は楽しい」の肯定率を2%向上させることができなかった。今年度の体育祭当日は終盤に雷雨接近のため、急遽種目数を減らしたり、文化祭では通常実施している飲食部門が2年続けて開催出来なかつたりするなど、生徒たちにとっては不完全燃焼であったと考えられる。(R2:72%→R3:72%) ・今年度も新型コロナウイルス感染拡大防止による制限のため、保護者や地域の方々の各行事への参加を積極的に「学校教育自己診断の「学校の様子をHPや、寝屋定メール、懇談や配付プリントなどによって知ることができる。」(R2:86%→R3:80%)」:数値は昨年より6%下がったが、肯定的回答として高い数値を得た。昨年度は、4・5月休校という特別状況であり、高い数値であった。来年度も続けて情報の更新と提供をしていきたい。 	
家庭・中学校・地域との連携強化	必要な情報を速やかに発信し情報共有を密にすることにより、学校、家庭、中学校、地域が一体となり、教育活動を進める。	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア清掃を年間4回実施し、生徒に参加を積極的に促し、ボランティア意識を高めさせることができた。 ・ボランティア清掃の1回当たりの参加者を40名以上にすることができなかった。毎年のことではあるが、開催時期が寒くなるにつれて参加人数が減少傾向にあるため、冬期開催の実施日には、なお一層積極的な声かけを行いたい。(R2:38名→R3:30名) 		
課題を抱える生徒への支援体制の充実		<p>今年度より生徒支援委員会と名称変更し、多様な支援を必要とする生徒に対し組織的に対応するため、業務の整理を行っている。</p> <p>(1)認知機能を強化することで学習の基盤を作り、コミュニケーション能力を向上させる。(新1年生)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・英数国体美5科目において1日に一度はネタレを行い、生徒に定着している。 ・4月当初に認知力測定テストを行い分野別評価を行った。年度末に同じテストをもう一度行い、効果を測定し検証する。 <p>(2)さまざまな困難に直面している生徒に対し、教員だけでなく外部人材も活用し、支援する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・月に1回の教育相談会議で、4月から12月までのべ43件の生徒情報を共有し、必要に応じてSケース会議を行った。 ・SCによるカウンセリングを5月から12月で、のべ8名実施し、学年・担任と情報を共有している。 ・介助員を活用し、障がいのある生徒が安全に学校生活を送ることができている。 ・学習支援員を1名を配置し、学力に不安のある生徒だけでなくクラス全体に支援を行っている。 ・北河内進路ガイダンス(10月31日)にて本校の支援体制の説明を行った。 ・不登校生徒の家庭訪問を担当がSSW同行で行った。 <p>(3)生徒理解のための教職員研修 生徒支援委員会・人権道徳教育推進委員会・フォローアップCo主催で「セクシャルマイノリ</p>		
キャリア教育の充実	進路保健部と担任が一体となって、情報提供を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒と保護者に、就職や進学の情報を説明会や懇談で伝えることができた。 ・奨学金に関する案内文の配付、ホームページで情報提供、保護者の参加が可能な説明会を実施した。 ・卒業学年担当者が会議で必要な情報の伝達・交換をし、個人情報の流出が起らないための注意喚起をした。 ・応募前職場見学の引率や面接指導など、卒業学年担任団だけでなく、進路保健部も連携・協力して取り組むことができた。 		
	生徒自らの将来設計について考え、踏み出すことができるような進路指導の充実	1年次より、進路HRを実施し、進路選択について考える機会を設定する。	<ul style="list-style-type: none"> ・各学年の進路指導目標に対応した進路ホームルームを実施した。 ・11月に外部講師(企業6社、専門学校4校)を招いて、全学年を対象に、生徒の希望する分野のガイダンスを実施した。 ・卒業学年生徒に対しては、放課後等で個々の希望に応じた個別指導の機会を多く設けることができた。 	
	就業体験、応募前会社見学を充実させ、就職希望者の進路選択を機会を増やす。		<ul style="list-style-type: none"> ・学校紹介就職の希望者24名中、令和4年1月18日時点で、21名が内定した。 ・応募前職場見学は延べ83名、63社の見学をし、すべての会社に教員が引率した。 	
学校力の向上	教員力の向上	授業見学・研究授業を実施し、全教員で授業力向上に取り組む。	R4.1に全定授業見学週間を実施した。コロナ禍ということもあり回数は少なかった。	
	職務の効率化	職務の効率化を図り、時間外勤務を減らす。また、年次休暇の取得を促進する。	4月から12月までの時間外勤務時間の各教員の平均時間は1.4時間で、目標の月平均2人は達している。また、年次休暇の取得日数は、昨年より増えている。	
	コンプライアンス意識の向上	不祥事の防止、職場のハラスメントの防止について、徹底を図る。また、セキュリティポリシーの徹底を図り、個人情報の管理体制を強化する。	「教職員は、法令、条例、規則を遵守して、業務を行っている。」の教職員アンケートは、肯定的回答が高い。	
危機管理体制及び保健・安全・衛生管理の徹底	校内体制組み、マニュアルを作成し、全教員に周知する。	進路保健部で、マニュアルを作成して、実際に2回の教職員研修をすることができた。大災害の非常時に、生徒対応できるイメージ作りと訓練を行い、シミュレーションすることができた。		

|